

中級から上級レベルにかけての数字の聞き取り練習

—筑波大学留学生センター補講コース「聞く」における実践報告—

関 裕子 田中 孝始 石田 麻実
酒井 たか子 平形 裕紀子 柳田 しのぶ

要 旨

本稿は筑波大学留学生センター技能別中上級コース「聞く」で中級レベルから上級レベルで一貫して行っている数字の聞き取り練習について報告するものである。中級前半では「数字の正確な聞き取りができるようになる」、中級後半・上級では「数字を聞き取り、その数字が何を意味するかが説明できる」をそれぞれ目標として学習項目を設定し、段階的かつ継続的な指導をしている。

授業後アンケートの結果では、学習者は数字の聞き取りを難しいと感じている一方で、授業で行った数字の聞き取り練習により、自身の数字の聞き取りにプラスの効果があったと感じていること、数字の聞き取りに対して意識を変化させたことなどが明らかになった。

【キーワード】 聴解 中上級レベル 数字の聞き取り練習 教材開発

Training Students to Hear Numbers in Intermediate and Advanced Courses : a report on Japanese Listening classes

SEKI Yuko, TANAKA Takashi, ISHIDA Mami
SAKAI Takako, HIRAKATA Yukiko, YANAGITA Shinobu

【Abstract】 We present listening tasks about numbers as a part of listening training in five level listening classes in Tsukuba University. This practice is presented consistently from the intermediate level to the advanced level. The goal of this practice in the first-half of the intermediate level is “to be able to hear numbers accurately”, and the goal of this practice for the second-half of the intermediate and the advanced levels is “to be able to hear numbers and to explain what they mean”. According to the results of a questionnaire conducted in these classes, we found that as a result of this practice, though students feel that hearing numbers is difficult, they feel the practice helped them improve their skills in hearing numbers.

【Keywords】 hearing skills, intermediate and advanced Japanese learners,
hearing numbers, developing teaching materials

1. はじめに

筑波大学留学生センター補講コース¹では、日本語中上級レベルの学習者を対象とした技能別日本語コースが開講されている。技能は「文法」「話す」「聞く」「読む」「書く」からなり、各技能が中級初期から中級前期、中級中期、中級後期、上級の5レベルに分かれている。前学期以前から継続してコースで学ぶ学習者は成績により上のレベルへ進級、また新規にコースに登録した学習者はプレースメントテストにより各技能でレベル分けをされ、さらに自身のニーズにより、受講する技能を選択する。

中上級技能別日本語コース「聞く」(以下、「聞く」)では、2010年度の現コース開始当初から、レベル間の学習項目につながりを持たせ、難易度を徐々に上げていくなど、段階を追った指導を行っている²。そのひとつに、数字³の聞き取り練習がある。日常生活および大学での専門的な学習・研究において、学習者は日々さまざまな数字および数字に関連のある情報を聞き取ることが要求されている。しかしながら、中上級レベルになっても、和語の数字や桁の大きい数字が正確に聞き取れない、数字そのものは聞き取れても、その数字が何を表しているかを説明できないなど、数字の聞き取りに対して苦手意識を持つ学習者は少なくない。学習者が苦手意識を克服し、さらに数字を聞き取る力を強化するためには、長期的な視点で継続した指導をする必要があると考え、「聞く」全レベルで一貫して数字の聞き取り練習を取り入れることにした。

本稿では、「聞く」において中級から上級にかけて行っている数字の聞き取り練習に関して、その導入の経緯と位置づけおよびレベル全体から見た学習内容の大枠と、その中に配置された学習項目を中心に報告する。なお、本稿では、5レベルのうち、中級初期(500レベル)および中級前期(600レベル)を「中級前半」、中級中期(700レベル)および中級後期(800レベル)を「中級後半」、上級(900レベル)を「上級」とする。

2. 数字の聞き取り練習に関する報告および教材

2.1 数字の聞き取り練習に関する先行研究

日本語教育の分野における数字の聞き取り練習に関する報告としては、国頭ほか(2011)がある。国頭ほかは、中級前期から中級後期終了レベルの学習者の聴解力を伸ばすための練習のひとつとして、「数字の聞き取り」を行った。「数字の聞き取り」を取り入れたことについて、「ニュースなどで数字が出てきた時、正しく数字を聞き取ることばかりに気を取られ、その数字が何を表すのかを聞き取れない学習者がいたため」とし、2回の実践から、以下のような考察を行っている。

- ・学習者の多くは数字を聞き取ることが目的になってしまっており、どんな桁数の数字でも一の位まで正しくメモできても、その数字が何を表しているのか聞き取れないのではないか。

- ・その数字が何を表しているかを聞き取る練習は、初級レベルから行う必要があるだろう。
- ・数字が表すものを正確に聞き取れるようになるためには、聴解力の他に語彙力や聞いたことをまとめる力などさまざまな能力が必要になる。

以上のことから、学習者が単に数字を聞き取るだけでなく、その数字が何を表しているかを正確に理解し、説明ができる力を身につけるためには、数字の聞き取り練習や語彙の強化、聞き取った情報をまとめるための指導を初級レベルから継続して行うことが望ましいと言えよう。

2.2 市販の教材に見られる数字の聞き取り練習

数字の聞き取りに焦点を当てた練習教材は、初級レベル対象の教材の中に見られる。例えば、筑波ランゲージグループ『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』(1991) (以下、SFJ) のVOLUME 1: DRILLSには、第2課の学習項目である数字(1~10000)、助数詞の「～円」「～枚」、第3課の助数詞「～人」「ひとつ、ふたつ」、第7課の「～時～分」「～月～日」などの情報を聞き取る練習がそれぞれの課の「Tasks and Activities」にある。これらは、会話の中に出てくる金額や日時などを正確に聞き取り、タスクシートに記入する、選択肢から適当な答えを選ぶなど、金額、日時、時間、数字+助数詞などを正確に聞き取ることに焦点を当てた練習となっている。また、SFJの補助教材として使用している筑波ランゲージグループ『わくわく文法リスニング99』(1995)には、SFJの第2課、第3課、第7課の学習項目に準じた数字の聞き取り練習があり、これらは「Tasks and Activities」同様、数字を正確に聞き取ることが要求される。他の初級レベルの市販教材を見ても、その多くが上記の教材同様、金額、日時、時間、数字+助数詞などを正確に聞き取る練習が中心である。

中上級レベル対象の聴解教材では時間や日時、金額など、単に数字そのものの聞き取りに焦点を当てた初級レベルの教材と大差ないものから、ある調査結果を聞いて表を完成する、話の中に出てくる数字とその意味を説明する、といった難易度の高い練習も見られる。だが、数字を聞き取る力を段階を追ってシステマティックに伸ばしていくことをねらいとした教材は、筆者の知る限りでは確認できていない。

3. 数字の聞き取り練習導入の経緯と授業における位置づけ

3.1 数字の聞き取り練習導入の経緯

学習者は、スーパーでの買い物の際の値段を聞く、事務室で書類の提出期限の日時を聞く、指導教官に面談や論文指導のアポイントをとる、といった日常生活の場面だけでなく、実験データや調査結果の聞き取りや指示の理解といった専門的な場面において、日々数字

に接している。このように、単に数字そのものを聞き取るだけでなく、聞き取った情報を整理し、適切に処理し、その数字が何を表しているのか、その数字が何を意味するのかを他者に正確に伝える力を要求される場面は少なくない。また、日本語を学習する教室においてだけを見ても、数字を聞き取る力は日本語学習を開始した当初から上級に至るまで、各技能においても要求され続けるものである。しかしながら、日本語が初級後半から中級といわれるレベルに達しても、数字の聞き取りが弱い、聞き取った情報を整理し、処理する力が十分ではない学習者が少なくない(酒井ほか、2010)。また、大きい桁の数字を聞くと混乱する、数字の聞き取りは母語でも難しいなど、数字の聞き取りに対して苦手意識を持つ学習者も少なからず存在する。筆者はこれまでの教授経験から、これらのスキルは一時的な練習によって身につけられるものではなく、繰り返し、意識的に練習を行うことによって習得できると考え、数字の聞き取り練習を、「聞く」の全レベルにおいて一貫して継続的に取り入れることにした。

3.2 授業における数字の聞き取り練習の位置づけ

「聞く」では、各レベルの担当者が到達目標⁴(表1参照)の設定および学習内容に基づいた授業計画および教材の作成を行っている。また授業では、「ディクテーション」「基礎練習」「主教材」の3つの活動を全レベルで取り入れており、レベル間の活動内容および学習項目につながりを持たせている(表2参照)。本稿で報告する数字の聞き取り練習は「基礎練習」に含まれるものである。表2に示した「基礎練習」は、学習効果を上げるために当該レベルだけで終わるのではなく、レベルを越えて継続して行うことが必要であると考えシラバスに組み込んでいる。「基礎練習」の実施回数は1学期全10回の授業のうち初回の授業と期末テストを除く8回で、中級後半の700レベルでは、そのうち「数字の聞き取り練習」を5回、「オノマトペ」を3回行っている。

表1 「聞く」各レベルの到達目標

レベル	中級前半		中級後半		上級
	500レベル	600レベル	700レベル	800レベル	900レベル
到達目標	<p>主に日常的、身近なトピックについての独話を聞いて、</p> <p>①大切な情報を正確に聞き取り、理解できる。</p> <p>②話の流れを理解することができる。</p> <p>独話の聞き取りに必要な基礎的な能力を養う。</p>	<p>主に身近な話題についての会話を聞いて、</p> <p>①必要な情報を正確に聞き取り、メモをとることができる。</p> <p>②話の流れを理解することができる。</p> <p>会話の聞き取りに必要な基礎的な能力を養う。</p>	<p>やや専門的でまとまった独話を聞いて、</p> <p>①話の流れを理解することができる。</p> <p>②聞きながらメモを取り、メモをもとに話の内容を要約することができる。</p> <p>③話の展開を予測しながら聞くことができる。</p>	<p>やや専門的でまとまった会話を聞いて、</p> <p>①本当に必要なポイントを整理しながらメモを取ることができる。</p> <p>②そのメモをもとに話の主張や意味を理解・整理することができる。</p> <p>③明示されていない話者の意図が理解できる。</p>	<p>情報量の多い会話や独話を聞いて、</p> <p>①明示されない部分の推測等を加えながら、必要に応じた聞き方ができる。</p> <p>②上級レベルの語彙、表現を、音声情報として理解できる。</p> <p>③方言、明瞭度の低い発話や速い発話など、条件の悪い中での聞き取りができる。</p>

表2 「聞く」各レベルの活動内容

レベル	中級前半		中級後半		上級
	500レベル	600レベル	700レベル	800レベル	900レベル
ディクテーション (約5~10分)	前回の学習内容などから、3~5文				
基礎練習 (約15~20分)	数字の聞き取り練習（詳細は4章を参照）				
	オノマトペ ：主に擬音語	親疎、男女のことば、終助詞、音の変化(短縮・縮約形)	オノマトペ ：主に擬態語	親疎、男女のことば、終助詞、音の変化(短縮・縮約形)	親疎、男女のことば、終助詞、音の変化(短縮・縮約形)、語彙を増やす
主教材：内容理解の練習 (約30~40分)	独話中心 主に日常的、身近なトピック	会話中心 主に日常的、身近なトピック	独話中心 やや専門的なトピック	会話中心 ニュース、ショートストーリー、ラジオドラマ	各種生教材 インタビュー番組、ドラマ、落語など

4. 目標と学習項目の大枠および授業例

4.1 目標と学習項目の大枠

継続的に数字の聞き取り練習を行うにあたり、5レベルを大きく中級前半と中級後半・上級の2つに分け、以下の目標を設定した。

【数字の聞き取り練習の目標】

中級前半：数字の正確な聞き取りができるようになる。

中級後半・上級：数字を聞き取り、その数字が何を意味するかが説明できる。

この目標を達成するために、各レベルでは「数字の聞き取り」、数字と共起性の高い語彙を学習する「語彙知識」、数字の示す情報の整理・説明を行う「内容理解」の練習を行っている。「数字の聞き取り」と「語彙知識」は「内容理解」を支える基礎的な力であるとも考えられるが、「内容理解」と同等に扱うことで、定着・強化を目指す。「数字の聞き取り」「語彙知識」「内容理解」にはそれぞれ、レベルの段階に応じた学習項目の大枠があり、中級前半から中級後半・上級に進むにしたがって、単純で基礎的なものから複雑で応用的なものへとなるようにした。次頁の図1は「数字の聞き取り」「語彙知識」「内容理解」それぞれの学習項目の流れおよび実践例を示したものである。左から右に伸びる大きな3つの矢印は、上から順に「数字の聞き取り」「語彙知識」「内容理解」で、各矢印の中にある学習項目は左（中級前半）から右（中級後半・上級）に進むにしたがって、単純で基礎的なものから複雑で応用的なものへとなっている。吹き出しは学習項目の実践例である。中級前半のものを点線の吹き出しで、中級後半・上級のものを実線の吹き出しで示した。以下では、「数字の聞き取り」「語彙知識」「内容理解」ごとに、学習項目とそのねらいを概観する。

「数字の聞き取り」は、中級前半では、「単純な数字」(例 電話番号、金額、「10700：いちまん「とんで」ななひゃく」)、「和語の数字」(例 ひとつ・ふたつ、ついたち・ふつか)、「似ている音の聞き分け」(例 4日：よっか/8日：ようか、1時：いちじ/7時：しちじ)、「桁の大きい数字」(例 70億、1000万：いっせんまん)などが主な学習項目である。中級後半・上級では、「桁の大きい数字」「不明瞭な発音やさまざまな言い方」(例 早口、方言、幼児のことばなど)が学習項目となっている。「単純な数字」「和語の数字」「似ている音の聞き分け」は、一般的に初級レベルの学習項目であると考えられるが、中級レベルに達しても十分に定着していない学習者が少なくない。また、これらの項目は「聞く」の中級後半・上級では既習で、聞き取れることが前提となるものであるが、継続した学習を行うことにより、さらなる定着を図る。加えて中級後半・上級では、テレビやラジオといった生の音声を使用し、速く、時に不明瞭な状況でも情報を正確に聞き取ることを目指す。

「語彙知識」は、中級前半では「助数詞・序数詞」(例 1本、ひとつ、1バック、1位)を主な学習項目としている。中級後半・上級へとレベルが進むにつれて、数字と共起性の

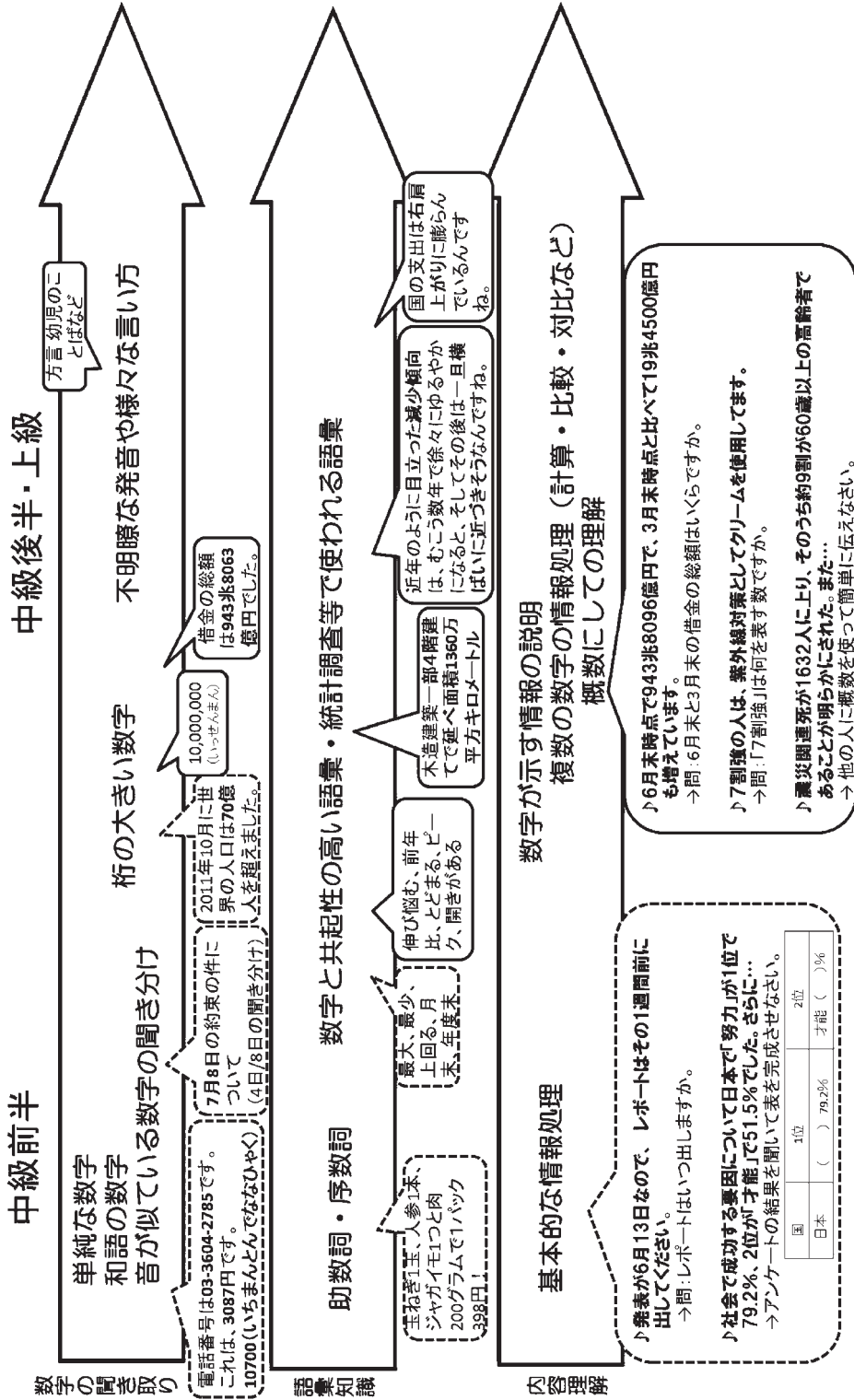


図 1 数字の聞き取り練習の学習項目の流れと実践例：田中ほか (2012)⁵より転載

高い語彙・統計調査等で使われる語彙（例 上回る、前年比、ピーク、横ばい）を取り上げ、その数字が何を意味しているかを正確に聞き取り、まとめ、伝えるために不可欠な語彙の強化を行う。

「内容理解」は、中級前半では主に、基本的な情報処理として、統計データなどの表の完成、話の中に出てくる複数の数字を聞き取り、要求された答えを導き出す練習（例 音声：発表が6月13日なので、レポートはその1週間前に出してください。→問：レポートはいつ出しますか。）が主な学習項目である。

中級後半・上級では、中級前半の学習項目に加え、数字の示す情報の説明（例 音声：7割強の人は紫外線対策としてクリームを使用しています。→問：「7割強」は何を表す数ですか。）、計算・比較・対比などによる複数の数字の情報処理（例 音声：6月末時点で943兆8096億円で、3月末時点と比べて19兆4500億円も増えています。→問：6月末と3月末の借金の総額はいくらですか。）、概数にしての理解など、学習項目が多岐にわたる。

表3 各レベルの数字の聞き取り練習：トピックと素材の例

レベル	中級前半		中級後半		上級
	500レベル	600レベル	700レベル	800レベル	900レベル
トピック	人口爆発	健康と病気	国の借金 943億円	紫外線対策の いろいろ	台風のニュース
素材の出典 ♪ スクリプトから一部抜粋	国連人口基金(2012)『世界人口白書2011』 http://www.unfpa.or.jp/cmsdesigner/data/entry/publications/publications.00031.0000005.pdf を参考に教師がスクリプトを作成(音声を録音) ♪ 今から10000年前、地球にいる人類の数は100万人くらいだったそうです。今から、およそ2000年前は約2億人くらいだったと考えられています。…	『SFJ』VOLUME 3 :DRILLS第22課「Tasks and Activities」 「4. 日本人の死因」を参考に教師がスクリプトを作成(音声を録音) ♪ 2010年のWHOの調査で、日本の平均寿命は男性が79.29歳で世界第4位、女性が86.05歳で世界第1位と発表されました。日本人女性の平均寿命は24年連続トップです。一方で、日本人の死因は変化しています。1970年は死因の1位が脳卒…	TOKYOFM三井住友アセットマネジメントマーケティングレポート2011年8月15日「国の借金943兆円」より ♪ 6月末時点で943兆8096億円と、いうことで、借金の総額は過去最高を更新したんですね。(はい) 3月末時点と比べて、19兆4500億円も増えているんですね。(うん) 国の支出は社会保障費の増加などによりまして、右肩上がりに膨らんでいるん…	TOKYOFM三井住友アセットマネジメントマーケティングレポート2011年5月26日「いまだキッ!マーケット」より ♪ 今や国内のUV市場の規模は一千億円に達していると言われてます。(中略) 世の中の人で一番多いUV対策は日焼け止めらしいんですね。全体で7割強です。そして、まこの調査では重複回答も含むんですけども、5割弱の人が帽子ですね…	インターネット上の動画ニュース等を使用 ♪ 本州最南端和歌山県串本町潮岬にいます。和歌山県内部では、午前6時ごろに、暴風域に入りまして、ここ潮岬では、午前7時32分に、最大瞬間風速31.6メートルを観測しました。雨、風と共に、非常に激しい状態が続いています。台風15号は午前8時の段階で、潮岬の南、およそ80キロの海上を北東に進んでいます。まさに…

これらの学習項目の大枠に従って、各レベルの担当者が素材探しからはじめ、素材をもとに教材を作成し、授業を行っている。中級前半では、既存の教材や統計資料などの素材をもとに、語彙や表現に適宜手を加え、スクリプトを作成し、教材化を行っている。中級後半・上級では、ラジオやテレビのニュース、情報番組などの映像・音声を使用して教材を作成している。表3に各レベルのトピックと素材の例を示す。

なお、600レベルの詳細については石田(2013)、700レベルの詳細については関(2013)を参照していただきたい。次節の4.2、4.3では例として、中級前半の500レベルと中級後半の700レベルの実践例を取り上げる。

4.2 実践例：中級前半（500レベル）

トピック：「人口爆発」（再生時間 6分39秒）

教材：国連人口基金(2012)『世界人口白書2011』

<http://www.unfpa.or.jp/cmsdesigner/data/entry/publications/publications.00031.00000005.pdf>
を参考に教師が作成したスクリプト、タスクシート、スクリプトを読み上げた音声ファイル(MP3)

主な学習目標：

- 1) 数字の正確な聞き取り（桁の大きい数字、助数詞・序数詞）ができる。
- 2) 数字に関連する語彙がわかる。聞き取れる語彙を増やす。
- 3) 話の内容が理解できる。

主な学習項目：

- 1) 数字の聞き取り：数字の正確な聞き取り（～カ国、第～位／人口上位国の人口数の聞き取り）と引き算など簡単な計算・数字の操作（例：人口は1000年前に3億人、現在は70億人、1000年でおおよそ___人増えた）
- 2) 語彙知識：数字に関連のある語彙（増える、上回る、突破する、～割、占める、合計）、その他の語彙（人口、国連、進歩する、発達する、温暖化、不足する、など）
- 3) 内容理解：人口爆発の原因と結果が引き起こすと思われる問題

活動時間：40～45分（主教材の中の練習の一部に組み込んで実施）

活動の流れ：

【授業前】学習者は各自ISC Web Class Library[®]から音声ファイル(MP3)をダウンロードし、タスクシートで宿題(予習)を行う。

【授業中の活動】

聞く前に：タスクシート(宿題)の「単語表」の単語の意味と音の確認

「500レベル教材例」

宿題：Homework

ID _____ 名前 _____

単語を調べておこう！

	たんご(単語)	かんじ(漢字)	いみ(意味)
1	ばくはつ(する)	爆発(する)	
2	うわまれる	上回る	
3	とっぱ(する)	突破(する)	
4	よそ(する)	予想(する)	
5	ぞうかい(する)	増加(する)	
6	こくれんじんこうきん	国連人口基金	UNFPA - United Nations Population Fund
7	ちようさ(する)	調査(する)	
8	ちいさ	地域	
9	しめる	占める	
10	よそく(する)	予測(する)	
11	きゆうげきな	急激な	
12	ばくだん	爆弾	
13	たごえる	例える	
14	しんぼ(する)	進歩(する)	
15	はつたつ(する)	発達(する)	
16	こくむつ	穀物	
17	せいさんりよく	生産力	
18	いがく	医学	
19	さまさまな	様々な	
20	ふそく(する)	不足(する)	
21	しょくりよう	食糧	
22	こよう(する)	雇用(する)	
23	しげん	資源	
24	せんそう	戦争	
25	かいほつ(する)	開発(する)	
26	かんきよう	環境	
27	はかい(する)	破壊(する)	
28	しまくに	島国	
29	かいめん	海面	
30	じようしよく(する)	上昇(する)	
31	しずむ	沈む	
32	おんだんか	温暖化	
33	～わり	～割	

1. 《世界人口の推移》

約46億年前	地球の誕生 Birth of the Earth	人口??
約700万年前	トウママイ猿人 アフリカにすんでいました	人口??
約160万～150万年前	原人 Archaanthropes (e.g. Pithecanthropine) 中国の北京原人やインドネシアのジャワ(Java)島	人口??
約200万年前	旧人 Paleanthropes man (e.g. Neanderthal) 西ヨーロッパから中央アジア	人口??
10万年前	新人 Neanthropes, modern humans 東南アジア、日本、オーストラリアや南北アメリカ	人口??
BC8000年	世界に住んでいた人の数は約()万人でした	
BC2500年	約1億人に増えました	
BC1年	()億人 1億人増えるのに2500年	
1000年	()億人 1億人増えるのに()年	
1650年	5億人 2億人増えるのに650年	
1804年	10億人 5億人増えるのに約150年	
1927年	20億人 10億人増えるのに123年	
1959年	30億人 10億人増えるのに32年	
1974年	40億人 10億人増えるのに25年	
1987年	50億人 10億人増えるのに13年	
1999年	60億人 10億人増えるのに12年	
2011年	()人 約1000年で()人増加	

UNFPA "世界人口白書2011" 国連人口基金 参照(2012.10.27)
 入手先 <http://www.unfpa.org/cms/desktopdefault.aspx/tabid-10000006>.pdf

2. ()の中に数字を入れなさい。

現在、世界中で1年に、()人が亡くなり、()人が生まれています。1分に()人、1日で()人、1年で()人増えているのです。

2. ()の中に国名と数字を入れなさい。

人口の多い国トップ10

1位	中国	China	人	6位	パキスタン	Pakistan	人
2位	インド	India	人	7位	バングラデシュ	Bangladesh	人
3位	アメリカ	USA	人	8位	ナイジェリア	Nigeria	人
4位	インドネシア	Indonesia	人	9位	ロシア	Russia	人
5位	ブラジル	Brazil	人	10位	日本	Japan	人

総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)統計研究所IP “第2章 人口” <http://www.stat.go.jp/data/sekai/02/html#2-01>

●中国とインドで、世界人口全体()か国と()地域ある】の約()割！
上位10か国で()割を占めています。

●ヨーロッパのEU27か国は、合計で()人います。

●国連(国際連合: United Nations)が予測した2050年の世界人口は()人
2100年までには()を越すと予想されている。

4. 人口爆発とはなんですか。

●このように()ことを人口爆発といいます。
人口が止まらないで増えていくことを()が()することにと
たとえているのです。

人口爆発 — スクリプト —

1. 今から10000年前、地球にいる人類の数は100万人くらいだったそうです。

今からおよそ2000年前は、約2億人くらいだったと考えられています。

それが、1000年前には3億人になりました。だいたい1000年の間に約1億人増えたこと
になります。

そしてそれから1000年後の、現在の世界の人口はどのくらいだと思いますか。

2011年5月に発表された国連推計によると2011年10月には70億人を突破すると予想さ
れています。1000年ぐらいの間に約67億人も人口が増加したことになります。

現在、世界中で年に6千万人が亡くなり、1億3千万人が生まれています。1分に137
人、1日で20万人、1年におよそ7千万人も増えているのです。

国連人口部(United Nations Population Division)の推計によると2010年の人
口の多い国トップ10は、第1位が中国で13億5400万人、第2位はインドで、約12億1400万
人、第3位はアメリカで約3億1800万人、そのあと、第4位がインドネシアで2億3300万
人、第5位はブラジル、1億9500万人、第6位パキスタン、1億8500万人、第7位バング
ラデシュ、1億6400万人、第8位ナイジェリア、1億5800万人、第9位ロシア、1億4
千万人、そして第10位が日本で1億2700万人と続きます。

特に多いのは、中国とインドで、この2か国で、192か国と42地域ある世界の人口全体
の約4割を占めています。また、今あげた上位10か国の中でも、その約6割を占めていま
す。

練習1：全体を聞き（1回）、話の流れや内容を学生に確認

練習2：音声ファイル全体を9分割（1分割はそれぞれ約20秒～1分20秒）し、1分割ずつ聞いて（1～2回）、タスクシートに答えを記入する→答えを完成する→答え合わせ（学習者が回答→パワーポイントで正答を見せながら教師が解説）→確認のためにもう一度聞く

まとめ：

①スクリプトをパワーポイントで表示。スクリプトを見ながら音声を聞き、目と耳で確認する

②授業の復習と宿題の指示。宿題のタスクシート（翌週の授業で使用）配布

【授業後】

ISC Web Class Libraryに翌週の授業の音声ファイル（MP3）を教師がアップロード

4.3 実践例：中級後半（700レベル）

トピック：「2012年辰年の新成人」（再生時間1分27秒）

教材：『TOKYO FM三井住友アセットマネジメント マーケティングレポート』2012年1月9日放送の「2012年辰年の新成人」（Podcastで配信された音声ファイルと、それを元に教師が作成したスクリプトおよびタスクシート

主な学習目標：

- 1) 話の内容を聞いて理解するために必要な語彙を増やす。
- 2) 数字を聞き取り、その数字が何を意味するかが説明できる。

主な学習項目：

- 1) 語彙知識：数字に関連のある語彙（前年比、増加／現象傾向、ピーク、第～次ベビーブーム、水準、横ばい、増えるか否か、～に留まる、など）、その他の語彙（辰年、干支、世代、など）を紹介する。
- 2) 内容理解：話の中に出てくる数字や言葉の説明（例：「112万人」、「平均1.16人」などが何を表しているかを説明する）、「今日のキーワード」の聞き取り、内容理解の質問に○か×で答える。

活動時間：15～20分

活動の流れ：

【授業中の活動】

聞く前に：タスクシートの「ことば」の導入・確認

練習1：話を聞きながら（2回）、メモを取る。メモをもとに、ペアまたはグループで情報の共有・確認をする。

練習2：質問に答える。答えがわからなかったところやクラスメイトと答えが異なる

部分をチェックする→もう一度聞いて、質問の答えを完成する→全体で答え合わせ

「700レベル教材例」

2012年 J731 聞く	
数字を聞く練習 4	
TOKYODFM「三井住友アセットマネジメント マーケティングレポート」2012年1月9日より	
●聞く前に	
ことば ～読み方を確認してください～	
・辰年（ たつどし ） / 干支（ えと ）、十二支（ じゅうにし ）	
・前年比（ ）	
・増加傾向（ ） / 減少傾向（ ）	
・ピーク	
・第1次（ ） ベビーブーム：	
・第2次（ ） ベビーブーム：	
・水準（ ）	
・横ばい（ ）	
・増えるか否か（ ）	
・世代（ ）	
・～に留まる（ ）	
●練習1 ～メモを取りながら聞きましょう。	
メモ	
●練習2 ～質問に答えましょう。	
質問1. 「今日のキーワード」は何か。	
質問2. 1月9日は何の日だったか。	
質問3. 成人の数の近年と今後について、話の内容とあっているものに○、違っているものに×をつけなさい。	
（ ） 第1次ベビーブーム以降、減少傾向が続いている。	
（ ） 今後数年間の成人の数は、大きく変化する。	
（ ） 第3次ベビーブームが来る可能性は高い。	
（ ） 国内の少子高齢化は今後ますます進むことが予想される。	
（ ） 成人の数の減少は労働力人口の減少を意味する。	
.....	
質問4. 話の中でてくる以下の数字や言葉を説明しなさい。	
122万人：	（ ） 数
2万人：	（ ） 数
1970年：	（ ） 年
平均1.16人：	（ ） 数

【授業後】

宿題：ISC Web Class Libraryから音声ファイル（MP3）をダウンロードし、スクリプトの穴埋めディクテーションをする（翌週のこの活動の冒頭で宿題の答え合わせや、ペアまたはグループでスクリプトを読むこともある）。

5. 授業後アンケートに見られた学習者からの評価・コメント

数字の聞き取り練習を通して、学習者は自身の数字を聞き取る力をどのように感じているのかを把握するために、2012年度1学期の授業最終日（6月27日）に、「聞く」の500～800レベルの受講者を対象に、質問紙による調査を行った。この調査は「聞く」の授業に対する授業評価アンケートの一部として実施されたもので、記名は任意とした。質問紙は授業最終日に実施した期末試験終了後に配布、記入後担当教師によって回収された。授業時間内に書き終わらなかったものは、持ち帰り、記入後提出するよう指示した。回収された質問紙は、500レベル49部、600レベル27部、700レベル27部、800レベル18部の計121部であった（回収率94.5%）。各レベル共通の数字の聞き取りに関する質問は以下の6項目であり、各質問項目はそれぞれ4段階尺度「1：そう思わない→4：そう思う」によって回答する形式とした。

質問1. 数字の聞き取りは難しい。

質問2. 前より数字が聞けるようになった。

質問3. 数字が入った文を聞きながら、表などに整理できるようになった。

質問4. クラスの前と後で、日本語の数字の聞き取りについて意識を深めた。

質問5. クラスで数字の聞き取りの練習を増やしたほうがいい。

質問6. 数字を聞くことに自信がある。

以下に、6項目の質問に対する回答の結果を述べる。

図2は「質問1. 数字の聞き取りは難しい。」の回答結果を示したものである。この質問に対し、全体の半数以上が「4. そう思う」「3. ややそう思う」と回答している。特に、700レベルでは70%以上、800レベルでは60%以上の学習者が難しいと感じていることがわかる。

「質問2. 前より数字が聞けるようになった。」では、全体の7割以上が「4. そう思う」「3. ややそう思う」と進歩を示す回答している（図3参照）。特に500レベルでは82%の学習者が肯定的な回答をしており、授業での練習が自身の数字の聞き取りにプラスの効果があったと実感していることがうかがえる（図3参照）。

「質問3. 数字が入った文を聞きながら、表などに整理できるようになった。」でも、全体の半数以上の学習者が、「4. そう思う」「3. ややそう思う」と回答している（資料1表6参照）。800レベルでは、肯定と否定がそれぞれ50%になっているが、このような練習を500、600、700レベルでは取り入れているが、800では特に取り入れていなかったことから、できるかどうかの判断が難しかったのではないかと考えられる。

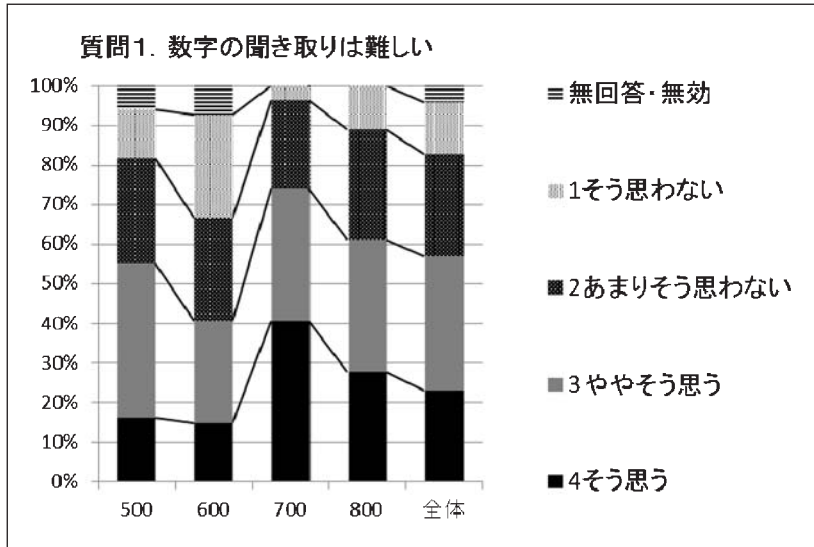


図2 「質問1. 数字の聞き取りは難しい」に対する回答結果

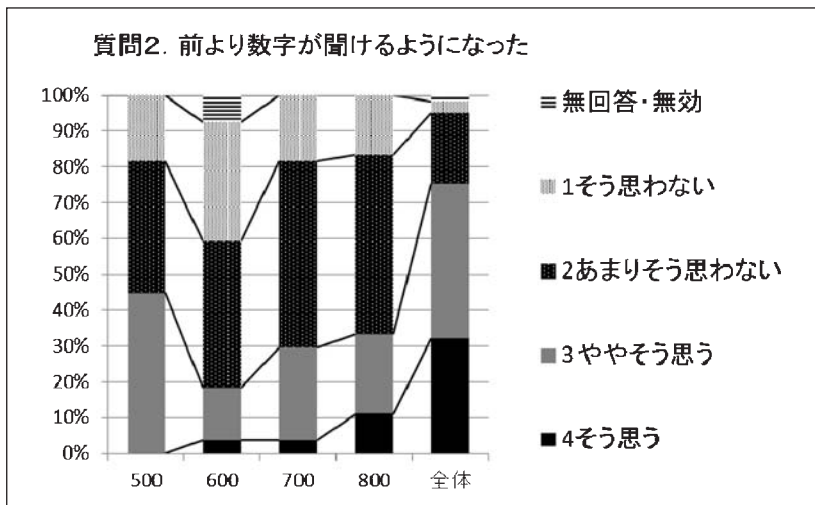


図3 「質問2. 前より数字が聞けるようになった」に対する回答結果

「質問4. クラスの前と後で、日本語の数字の聞き取りについて意識を深めた。」では、全体の60%以上の学生が肯定的な回答をしている（資料1 表7参照）。特に500レベルでは、70%以上の学生が意識を深めたとし、その半数以上が「4. そう思う」と回答している。また、その理由（資料2参照）から、数字の聞き取り練習を取り入れたことが、授業内のみならず、日常生活においても数字を聞き取り、理解することへの意識を深めるきっかけになっていたことがうかがえる。

「質問 5. クラスで数字の聞き取りの練習を増やしたほうがいい。」では、500レベルと800レベルで肯定的な回答が半数以上を占めている一方で、600レベルと700レベルでは、否定的な回答が半数以上を占めている（資料1 表8参照）。また全レベルで見ると「2. あまりそう思わない」が最も多い。500レベルの学習者から肯定的な結果が得られたことについては、「質問 2. 前より数字が聞けるようになった。」でも、肯定的な回答が80%以上であることから、数字の聞き取り練習の学習効果を感じ、練習を肯定的にとらえているのではないかと考えられる。また800レベルの結果については、2012年度1学期の数字の聞き取り練習の実施回数が500レベルで6回、600レベルで5回、700レベルで5回、800レベルが2回で、800レベルの実施回数が他のレベルに比べ少なかったことが、学習者の肯定的な回答に影響したと考えられる。

「質問 6. 数字を聞くことに自信がある。」では、500レベルと600レベルでは、半数以上が自信があると回答しているのに対し、700レベルでは、自信がないという回答が70%で、800レベルでも半数以上が自信がないと回答している（図4参照）。これは中級後半になると、単に数字を聞き取ればよいだけでなく、その数字が何を意味するのかを説明する等、学習内容が難しくなっていることが、中級後半の学習者が「自信がない」と感じる要因になっていると思われる。

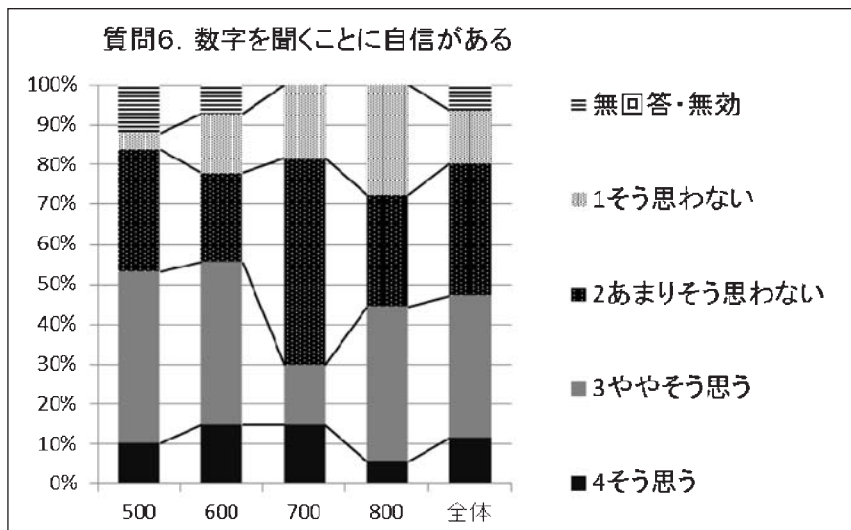


図4 「質問 6. 数字を聞くことに自信がある」の回答結果

以上の結果から、学習者は数字の聞き取りを難しいと感じていることがわかった。また、数字の聞き取り練習は、学習者の数字を聞き取る力にプラスの効果を与え、さらに、数字を聞き取る力に対する自己評価と認識を変化させる一助となったことが示唆された。

6. 今後の課題

以上、中級から上級レベルにかけての数字の聞き取り練習について、その導入の経緯と位置づけおよびレベル全体から見た学習項目の構成を中心に述べてきた。今後、この練習を改善・発展させていくための検討課題として、以下の3点が挙げられる。

1) レベルに応じた学習項目についてのさらなる検討

各学習項目は、段階を追って、繰り返しかつ継続して練習を行うことにより定着し、強化されることを目指して配置されているが、より効果的な指導のためには、各レベルに配置された学習項目が適当であるかどうかの検討を継続して行う必要がある。継続して修正・改定を行い、レベル全体を見通したよりよいシラバスの構築を目指す。

2) より効果的な指導の検討

数字の正確な聞き取りのための練習方法の提案、数字に関連のある語彙の指導方法、内容理解のための情報処理の方法などを検討し、それらをレベルの段階に応じて適切に導入することで、より効果的な指導を行う。また、ひとつのテーマ・素材を元に、学習項目の難易度に合わせた教材を複数作成し、それをを用いて継続的に指導を行うことによる効果についても、検討を行いたい。

3) 学習者のニーズに合わせた教材開発の必要性

現段階では、教師が設定した学習項目およびタスクの形式により教材の作成・開発を行っているが、それが学習者の実際のニーズに適合したものであるかどうかという検討はまだなされていない。数字の聞き取りに対する学習動機の向上や意識づけをはかるには、学習者の反応を取り入れつつ教材の開発・改訂を行う必要がある。

数字の聞き取り練習は、「聞く」の授業を構成する一部分ではあるが、上記3点の検討課題の解決に向けた取り組みを行うことで、この練習をよりよいものへと改善・発展させていくと同時に、「聞く」の授業全体の向上を目指したい。

注

1. 筑波大学留学生センター補講コースでは、2010年4月から初級から上級までの全9レベルを設け、初級コースを100～400の4レベル、技能別中上級コースを500～900の5レベルとしている。
2. 2012年度の「聞く」は、500レベルを田中（2クラス）、平形（1クラス）、600レベルを石田（2クラス）、平形（1クラス）、700レベルを関（2クラス）、800レベルを柳田（2クラス）、900レベルを酒井（1クラス）が担当している。
3. ここでいう数字とは、「1」「125」といった数字そのもの、「35%」「48g」「152円」といった数字+助数詞（数値）、「ひとつ」「ついたち」といった和語の数字や日時など、数字が用いられるものすべてを指す。

4. 到達目標は、2010年度開始の現行コースの授業に向けて、酒井たか子、関裕子、二瓶知子（当時本センター非常勤講師）、柳田直美（当時本センター非常勤講師）の4名で検討したものを土台とし、現担当者の共同執筆者がさらに検討を行い、設定したものである。
5. 田中孝始・酒井たか子・関裕子・石田麻実・柳田しのぶ・平形裕紀子（2012）『聴解クラスにおける中級初期から上級にかけての数字の聞き取り指導に関する報告』日本語教育国際研究大会名古屋2012研究発表（ポスター発表）
6. 筑波大学留学生センターがweb上で開設しているファイルダウンロードサイト（学内からのみアクセス可能）である。教師はこのサイトを利用して、教材の電子ファイルや音声ファイルなどを学習者に配布することができる。学習者はダウンロード専用のIDとパスワードを入力してファイルをダウンロードし、それを使って自習や課題を行う。

参考文献

- 石田麻実（2013）「中級前期日本語学習者を対象とした正確に情報を聞き取るための聴解指導－「聞くJ631」授業報告－『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：205-220
- 国頭美紀・廣田周子（2011）「中級レベルの聴解力を伸ばすための試み-学習者は何を聞き取っているのか-」『文化外国語専門学校紀要』24号：33-54
- 小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・藤本泉・三宅和子（1995）『わくわく文法リスニング99ワークシート』凡人社
- 酒井たか子・関裕子・二瓶知子（2010）「中上級聴解レベル分けのためのテストの試作と実施報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』25号：59-76
- 関裕子（2013）「日本語中級中期レベルの聴解クラスの授業報告-筑波大学留学生センター補講コース「J731 聞く」での実践について-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：221-234
- 筑波ランゲージグループ（1991）『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE VOLUME 1 : DRILLS』凡人社

資料1 授業後アンケート結果

表中の数字は回答数で、()にはその回答数が回答者全体に占める割合を示した

表4 質問1. 数字の聞き取りは難しい。

	全体 (%)	500 (%)	600 (%)	700 (%)	800 (%)
1 そう思わない	16 (13)	6 (12)	7 (26)	1 (4)	2 (11)
2 あまりそう思わない	31 (26)	13 (27)	7 (26)	6 (22)	5 (28)
3 ややそう思う	41 (34)	19 (39)	7 (26)	9 (33)	6 (33)
4 そう思う	28 (23)	8 (16)	4 (15)	11 (41)	5 (28)
無回答・無効回答	5 (4)	3 (6)	2 (7)	0 (0)	0 (0)
合計	121 (100)	49 (100)	27 (100)	27 (100)	18 (100)

表5 質問2. 前より数字が聞けるようになった。

	全体 (%)	500 (%)	600 (%)	700 (%)	800 (%)
1 そう思わない	4 (3)	0 (0)	1 (4)	1 (4)	2 (11)
2 あまりそう思わない	24 (20)	9 (18)	4 (15)	7 (26)	4 (22)
3 ややそう思う	52 (43)	18 (37)	11 (41)	14 (52)	9 (50)
4 そう思う	39 (32)	22 (45)	9 (33)	5 (19)	3 (17)
無回答・無効回答	2 (2)	0 (0)	2 (7)	0 (0)	0 (0)
合計	121 (100)	49 (100)	27 (100)	27 (100)	18 (100)

表6 質問3. 数字が入った文を聞きながら、表などに整理できるようになった。

	全体 (%)	500 (%)	600 (%)	700 (%)	800 (%)
1 そう思わない	9 (7)	3 (6)	1 (4)	3 (11)	2 (11)
2 あまりそう思わない	30 (25)	13 (27)	5 (19)	5 (19)	7 (39)
3 ややそう思う	64 (53)	24 (49)	14 (52)	18 (67)	8 (44)
4 そう思う	15 (12)	8 (16)	5 (19)	1 (4)	1 (6)
無回答・無効回答	3 (2)	1 (2)	2 (7)	0 (0)	0 (0)
合計	121 (100)	49 (100)	27 (100)	27 (100)	18 (100)

表7 質問4. クラスの前と後で、日本語の数字の聞き取りについて意識を深めた。

	全体 (%)	500 (%)	600 (%)	700 (%)	800 (%)
1 そう思わない	2 (2)	1 (2)	1 (4)	0 (0)	0 (0)
2 あまりそう思わない	36 (45)	10 (20)	8 (30)	11 (41)	7 (39)
3 ややそう思う	45 (37)	16 (33)	9 (33)	12 (44)	8 (44)
4 そう思う	34 (28)	20 (41)	7 (26)	4 (15)	3 (17)
無回答・無効回答	4 (3)	2 (4)	2 (7)	0 (0)	0 (0)
合計	121 (100)	49 (100)	27 (100)	27 (100)	18 (100)

表8 質問5. クラスで数字の聞き取りの練習を増やしたほうがいい。

	全体 (%)	500 (%)	600 (%)	700 (%)	800 (%)
1 そう思わない	6 (5)	2 (4)	2 (7)	2 (7)	0 (0)
2 あまりそう思わない	53 (44)	21 (43)	13 (48)	13 (48)	6 (33)
3 ややそう思う	29 (24)	16 (33)	3 (11)	4 (15)	6 (33)
4 そう思う	29 (24)	9 (18)	6 (22)	8 (30)	6 (33)
無回答・無効回答	4 (3)	1 (2)	3 (11)	0 (0)	0 (0)
合計	121 (100)	49 (100)	27 (100)	27 (100)	18 (100)

表9 質問6. 数字を聞くことに自信がありますか。

	全体 (%)	500 (%)	600 (%)	700 (%)	800 (%)
1 そう思わない	16 (13)	2 (4)	4 (15)	5 (19)	5 (28)
2 あまりそう思わない	40 (33)	15 (31)	6 (22)	14 (52)	5 (28)
3 ややそう思う	43 (36)	21 (43)	11 (41)	4 (15)	7 (39)
4 そう思う	14 (12)	5 (10)	4 (15)	4 (15)	1 (6)
無回答・無効回答	8 (7)	6 (12)	2 (7)	0 (0)	0 (0)
合計	121 (100)	49 (100)	27 (100)	27 (100)	18 (100)

